

「今年はドイツから長野式を学びにやってきた」

長野式臨床研究会 副代表 長谷川吾朗



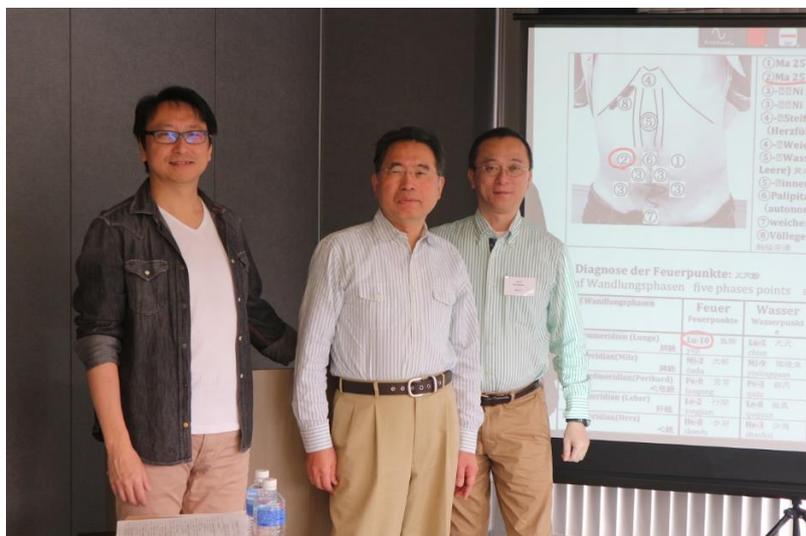
2016年11月、長野式治療をドイツに紹介する為にドイツに渡った当会代表長野康司と筆者が目にしたものは、世界が日本の鍼灸技術を求めているという現実であった。しかし、日程の関係で、講演、実技時間が短く、長野式治療を存分に体感していただく事が出来なかった。

そこで、今年はドイツから日本に来ていただき、思う存分長野式治療の理論から手技や技術を体感していただくこと、大分県白杵市にてインテンシブコースを計画。昨年お世話になった「日独ソリューションズ」の池田夫妻の力をお借りして、1年間の準備の末今回実現の運びとなった。

今回は日本での開催と言う事もあり、当会代表長野と筆者に当会学術部長の大野倫史を加えての講師3人体制で、ドイツから来た10名に技術指導を行った。この10人のうち、7名がドクターで、3名が鍼灸療術師。ドイツ、ギリシャ、オーストリア、スペインからの参加であった。

昨年の内容を教訓にテキストもパワーポもドイツ語仕様で準備した。それにより非常にスムーズで伝えやすい内容となった。

また、午前と午後にそれぞれ座学と実技、90分×4コマのみっちり6時間。長野式治療の真髓をしっかりと伝える5日間(3日目を除き)27時間セミナーを、長野式臨床研究会講師3人が直に教える誰もが羨む内容である。



1 日目 「長野式治療の概要」と「長野式診断法」 講師 長野



快晴の空の下、長野代表も参加者もやや緊張の面持ちで、軽い自己紹介の後、セミナーが始まった。

長野式治療の説明からはじまり、診断法の脈状診、腹診、火穴診、局所診の座学を午前と午後に1コマずつ、実技も午前と午後に1コマずつ、丁寧なセミナーだ。

長野代表は、いつものように淡々と講義を始めた。後半は、いよいよ実技指導。長野式診断法のコツと指を、3人の講師が何度も指を重ね、しっかり伝えた。通訳のイソルデさんも言葉巧みに動き回る。

2 日目 「免疫系」「気系」 講師 長谷川



いよいよ長野式治療の核心部分の27以上ある処置法のスタートである。座学の後、参加者に鍼を打ってもらう事に。ところが参加者、鍼が打てていない。切皮も、鍼管操作も、雀啄も殆ど出来ない。ドイツでは、鍼管を使っての鍼は使わず、直接鍼を刺入するタイプだそう。そこで、鍼操作の基本中の基本からみっちり指導する事に。さすがはドクター、非常にもの覚えが良い、どんどん指で技術を習得していく。

昨年ドイツのお灸事情を思い出す。「お灸はやらない」と聞いたが、そこに切り込んでお灸の体験と実技指導をやっていただこうと考えた筆者は、「お灸を体験してみませんか？」と遠慮がちに問うと、「是非やりたい」「やって欲しい」「どうひねるの」等々、お灸に興味津々で大興奮。しっかりお灸も体感してもらった。

3日目 「血管系」 講師 長野



3日目に入り、どんだんうち解けてきた。各自の実技もだんだん様になり、積極的に打てるようになってきた。午後は、セミナーの中休み。日独ソリューションズの池田元東大教授のお知り合いでフンドウキン醤油の社長のご厚意により、お茶の体験と白杵観光で、参加者は大いに日本文化を堪能した。



4日目 午前「筋肉系」講師 長野 ・ 午後「神経・内分泌系」講師 大野



講義最終日、当会代表も午前の講義と実技には力が入っていた。午後には大野の講義と実技。初めてのメイン講師であったが、いつもの調子で慣れた様子、言葉に力があり、参加者も納得の内容となった。



いよいよ最終日。治療希望者を募り、実際の治療を診断から治療まで、午前は筆者、午後は長野代表が丁寧に
行う。その後全員が施術体験。みっちり詰め込んだ長野式治療を組み立て、しっかり治療していった。自分が打
った鍼で、身体が変わってくるのを感じた参加者は長野式をすでに身に付けだした、非常に飲み込みは早い。

全員の実技の後には、「Intensivkurs Nagano-Akupunktur inUsuki」の参加証明を全員に渡し、夜の宴になだ
れ込んだ。



セミナーを終えて

非常に中身の濃い、実践型のセミナーであった。初めは講師も参加者も固くなっていたが、同じ鍼灸を業とす
る者同士には言葉の壁が低くなったような気がする。

低くなくてもやはり言葉の壁はある。どんな時も壁に穴をあけて、意思疎通ができたのも通訳イゾルデさんの
力は絶大だ。又池田教授の通訳サポートと準備があってこそ実現したセミナーでした。また実技時ドイツ語通訳
として大分市の河野名子（かわのめいこ）。英語通訳には世界 200 ヶ国を旅する Yury Angera（ゆりーあんじえ
ら）にもサポートしていただいた。今回のセミナーで使った鍼道具一式は（株）セイリンより提供を受けた。参
加者は使いやすい鍼だと、日本の鍼技術に関心を示してしていた。皆様にはこの場をお借りしてお礼を述べたい。

今回のセミナーの成功が物語る成果として、来年以降も日独交流の長野式治療セミナーを継続すると池田教授
から後日連絡があった。参加者も実技の多いセミナーに納得の様子だったようだ。

今もドイツの空の下では、参加者が身につけた長野式を使って治療している姿が目につく。